

平成22年度施策評価表

(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 4 月 16 日

施策No.	26	施策名	文化の振興
主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課長名	紙尾 昌志
関係課名	図書館、水族博物館、埋没林博物館		

施策の目的 【対象】	市民	対象指標名	単位	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	目標年度 (年度)
		市の人口	人	46,459	46,036	45,562	45,562	45,562	

施策の目的 【意図】	①芸術文化活動に数多く触れ、 教養を高める。 ②郷土の文化財・伝統文化に 愛着と誇りを持つ。	成果指標名	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度目標	目標値
		①-1.芸術文化活動に触れ、教養が高まったと感じる市民の割合	%	15.5	12.4	24.2	30.0	30.0	
		①-2.芸術文化に関心を持ってイベントに参加する市民の数	人	7,384	7,601	7,600	8,000	8,000	
		①-3.芸術文化活動に取り組んでいる人の数	人	1,072	995	1,000	1,100	1,100	
		②郷土の歴史、伝統、自然に育まれた文化が豊かだと感じている市民の割合	%	27.3	24.8	39.0	45.0	45.0	

成果指標設定の考え方	<p>①-1.市民意識調査により、芸術文化活動に参加して、教養が高まったと感じる人の割合をみることで、市民全体の教養の高まり度合いを類推できるので、これを成果指標とした。</p> <p>①-2.芸術文化に参加している人の数を見ることで、芸術文化に関心を持っている人の規模が把握できるので、これを成果指標とした。(参考数値:市文化祭、市美展入場者数)</p> <p>①-3.文化団体等に参加し、芸術文化活動に取り組んでいる人の数を見ることで、市民の教養の高まりの程度を判断できるので、これを成果指標とした。(参考数値:文化協会会員数)</p> <p>②市民意識調査により、いわゆる満足度、納得度を採用した。数値が高まれば、郷土への愛着と誇りが高まったと考える。</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成果指標の把握方法(算定式等)	<p>①-1.企画政策課が実施する市民意識調査により把握。</p> <p>①-2.生涯学習・スポーツ課の資料により把握。(現状では、一部数値のみ把握している項目である。)</p> <p>①-3.生涯学習・スポーツ課の資料により把握。(現状では、市文化協会加入者数等一部数値のみ把握している項目である。)</p> <p>②企画政策課が実施する市民意識調査により把握。</p>
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策の成果向上に向けての役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に芸術文化活動に触れたり、参加していただく。 市の文化財、伝統文化に関心を持っていただき、将来に伝えていただく。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 文化施設等の情報提供や文化事業への支援に努める。 文化財、伝統文化の保存、情報提供、それらに触れる機会の提供などを行う。
	その他	

施策No.	26	施策名	文化の振興
平成21年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること。)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述。)		
	①-1.文化芸術活動に触れ、教養が高まった割合は、20年度の12.4%から24.2%と11.8%の増となっている。 ①-2.21年度は、市文化祭、市美術展の入場者数並びに市文化協会会員数も同様な数値となっている。 ②郷土の歴史や伝統が継承され、自然に育まれた文化が豊かであると感じている人の割合は、20年度の24.8%から39.0%と14.2%の増となっている。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述。)		
	①新川文化ホールと天神山交流館等の文化施設があり、その中で行われている文化芸術活動は、近隣他市、同規模市と比較しても充実している。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述。)		
	①文化芸術については、人それぞれの興味のあることについては、5万弱の人口規模の魚津市で開催できる企画は、市民個々が得意な分野の期待水準に比較して低いかもかもしれない。それを補うため、県内各文化施設が連携して企画するようにしている。		
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述。)		
	①小中学校の時から文化芸術に親しんでもらうため、新川文化ホールでの芸術鑑賞や伝統芸能、音楽鑑賞を実施している。②音楽の街づくり事業による小中学校、公共施設への出前演奏 ③新川文化ホールのミラージュギャラリーでの市美術協会員 ④歴史民俗博物館の展示への市内小学6年生の鑑賞・解説授業 ⑤たてもんボランティア募集により、郷土の伝統を守る意識の向上を図った。		
	3. 施策の課題認識及び平成22年度の取り組み状況(予定) (平成21年度末で残った課題、既に平成22年度に取り組んでいること、又は取り組みの予定について記述。)		
①歴史と文化の薫るまちづくり事業として、松倉城跡、魚津城跡、天神山城跡に解説版や立体復元模型など、設置する。また、小学生高学年以上を対象に、歴史副読本を作成する。 ②米騒動発祥の地としての国の記念物登録の推進 ③洞杉の文化財指定			

施策の トータル コスト	区分	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	23年度計画	24年度計画
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	14	12	22			
B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	143,552	220,237	122,289				
C. 事務事業に要する年間総時間	時間	4,800	7,464	7,380				
D. 人件費 (C×1時間あたりの平均人件費)	千円	19,728	31,386	31,033				
E. トータルコスト (B+D)	千円	163,280	251,623	153,322	0	0	0	
効率性 指標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の	円	3,072	4,784	2,684			
	F. 事業費 (定義式 : B/人口)							
	同上	円	422	682	681			
	G. 人件費 (定義式 : D/人口)							
同上	円	3,495	5,466	3,365				
H. トータルコスト (定義式 : E/人口)								